

朝10時。鶏舎の卵を集めたら一つ一つ拭いて計量します。「子どもたちと一緒にたいしからこの仕事を選んだ」とフジタファームの佐野洋介さん。1歳になる文太君に声をかけながら出荷の準備。

小さな雛から鶏を育て、その健康を見守り、毎日産まれる卵を大切に届ける家族がいます。長野県富士見町の卵農家、フジタファームが育む卵の話。

## やさしい たまごの話



## 水と空気が きれいな場所で

人の営みのすぐそばで、ともに暮らすように鶏の生命が息づいていいます。切妻屋根の母屋を囲むように鶏舎が18棟。裏手の木立を進むと、澄んだ小川が瀬音を響かせていました。「最近は夜になると蛍が飛ぶんですよ。空気がいいんでしょうね。あ、今、鹿がいましたね。見えましたか？」

小川から飼料作りの水を運びながら話すのは佐野洋介さん(39歳)。大地を守る会の「国産穀物育ち・さっぱり平飼卵」の生産者の一人、フジタファームの代表を務めます。

フジタファームは、1985年に藤田孝広さん・悦子さんが富士見町に移り住んで採卵養鶏を始め、大地を守る会への出荷は1990年代から。2年前に娘さん夫婦である洋介さん・さと子さんに代替わりをして、2家族で卵を届けています。

## 当たり前前の 自由がある

だれが教えたわけでもないのに、鶏が1羽、鶏舎にある産卵箱に入っ ていきました。鶏はほぼ1日1回、産卵するときに来ると、自らこの箱にこもります。敵に襲われる心配のない場所で隠れて産みたいという本能があるからです。しばらくして、「コケーツコケーツ」とひと際強い声がかえってきました。

「産卵した合図ですね」  
見るとあたたかな卵がひとつ増えていました。洋介さんはそっと手に取り、バケツに集めて回ります。

ひとつの鶏舎は約10坪で100羽、合計1800羽ほどを飼育しています。昼2畳分に10羽という十分な

広さであることが分かるでしょう。「鶏たちは走り回ったり、突ついたり、自由ですよ。ほら、砂浴びに夢中の子もいます」

地面の穴に入り体を擦り付ける砂浴びは、人間でいうなら入浴。汚れを落とすだけでなく心地よいものだから、鶏の目元がゆるんで見えます。鶏舎の中には止まり木で休む鶏も

いれば、羽繕いする鶏も。何気ない動きですが、鶏にとっては本能的に必要な行動です。掻きたいところを掻く、羽を大きく広げる、地面を啄む。そうした自由が当たり前にある。健やかな平飼いの姿です。

## 雛から 米で育む

黄身の色が淡いレモン色。大地を守る会が「国産穀物育ち・さっぱり平飼卵」としてお届けしているフジタファームの卵は、通常見る卵よりも黄色味がやさしい印象です。「うちの鶏はくちばしも肢も色が薄いです。お米を食べて育つてから白っぽいですよ。トウモロコシで育った鶏はもつと黄色っぽくなりますよ」と洋介さん。

「うちの鶏はくちばしも肢も色が薄いです。お米を食べて育つてから白っぽいですよ。トウモロコシで育った鶏はもつと黄色っぽくなりますよ」と洋介さん。  
飼料は鶏の体にも、卵にも直結。食べたもので体は作られるといいますが、人間以上にはつきりと現れるのだと驚きを覚えます。

自家配合の飼料の穀物は、近隣の酒蔵が日本酒を醸造した際に出る、国産米の米粉と米ぬかを100%使用。米だけでは足りない栄養素を補うのは、田畑の周りの草を刈って与える緑餌です。草が豊富な夏は黄身の色も濃くなりますが、「色は目的ではなく結果」。鶏の健康が優先です。

フジタファームがもうひとつ大切にしているのは雛から自分たちの手で育てること。鶏は日齢150日ご

ろから産卵し始め、180日が産卵のピーク。生産性を考え、産卵間際から飼育するところもあります。

「それでは醍醐味がないでしょう」

洋介さんが「一番近くにいらっしゃる先生」と敬う義父の孝広さんが話します。「生まれたてでうちに來ることで、この気候、風土に慣れて、丈夫な鶏になつてもうらやましいです」

- 1 米では賚えないビタミンを緑餌で補います。鶏たちは特にクローバーが大好き。鶏舎に放つと、すぐなくなる人気のおやつです。
- 2 羽が生え変わる日齢50日。鶏舎に積んだ土嚢は、地面を掘って侵入してくるきつねから守るための対策です。「お父さんとお母さんが僕らに引き継いでくれた知恵」と洋介さん。
- 3 右が日齢150日の初産みで殻がかたく小さめ。左が11カ月ほどのベテラン鶏の卵。歳を重ねるにつれ、卵は大きく色は薄くなります。
- 4 日齢90～100日。肢の白さがわかるでしょうか。「お米育ち」が肢の色にも現れます。

きました。ヒヨコが大きくなるまで、少しづつ穀物の配合を変えたり、水桶も徐々に大きくしたりと、人間が鶏の歩みに合わせてあげます。ああ、子どもを育てると同じだなと思うんです」

雛から育てるのは手がかりますが、「わが子のように」あたたかい眼差しで鶏を見守ります。



## 未来を作る 卵の選択

八ヶ岳の山麓で平飼一筋に取り組んできたフジタファームですが、フジタファームを立ち上げた孝広さんの実家は青森県の畜産農家でした。家業ながら「肉牛を輸入飼料で太らせ、解体して、高ランクになると高い値が付くという繰り返し。不自然だと感じていた」と話します。

妻の悦子さんと出会って、岐阜県

- 5 「自分が作ったものを子どもにも鶏にも食べさせたい」と5年前に田んぼを始めました。鶏舎の鶏糞を肥料に使い、収穫したら玄米を雛の飼料として与えて循環。
- 6 八ヶ岳の湧水が流れる小川がすぐ裏に。ここから発酵飼料を作るための水を運びます。



## すこやかに 育まれて



産卵箱の中の卵を集めて回ります。健康状態が卵の殻に現れるため、よく見ながら集卵。「今絶好調に産んでくれている、日齢160日の若鶏。」

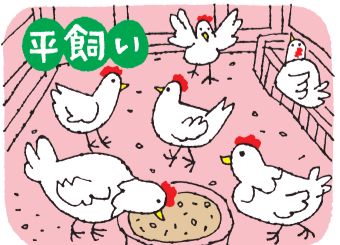
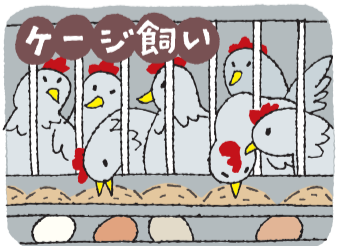
で暮らす中「薬を与えず、自然を与えよ」と提唱された「自然卵養鶏法」に共感。悦子さんの実家が所有していた現在の地に移り住んで、100羽ほどから採卵養鶏を始めました。5年前に継承を申し出た洋介さんも「鶏がどれだけ元気かが一番。鶏が健康なら卵もおいしいんです」と、健康に育てる志を受け継いでいます。のびのびと育った鶏の卵をいただく、飼料がお米ということもあるでしょうか。すっきりとして清らかな自然のどを通る澄んだ味わいが感じられます。移住者が増えた地元・富士見町でも、口コミで評判が広がり、洋食屋さんのオムライス、うどん屋さんの温泉玉子など、多くの飲食店で使われるようになりました。日本人1人当たりの年間鶏卵消費

量は300コ以上(※1)。ほぼ1日1コを食べています。しかし、その卵の出自を辿ると、94・3%がケージ飼(※2)。フジタファームのような平飼養鶏はごくわずかなのです。一人ひとりが卵を選ぶ際、健康に育まれたものを選ぶことで変わる未来があるのではないのでしょうか。これからも大地を守る会は、平飼いの卵を届け続けていきたいと思えます。

## CO L U M N

### 日本の卵はケージ飼いが9割

「アニマルウェルフェア」の考え方が世界的に広がり、採卵鶏の飼育形態もケージフリーが叫ばれています。EUでは2012年から、ケージ飼いのなかでも「パタリーケージ」(止まり木や巣箱などが無い従来型)による飼育を禁止し、2021年の段階でケージ飼いの割合はフランスで36%、ドイツは5.5%にまで減少しています。ところが日本ではいまだに9割以上がケージ飼いです。(※2) ケージ飼いの鶏舎のスペースは1羽当たりB5サイズ程度といわれ、なかには、日の光を見ることなく卵を産み続けるウインドレス(無窓)鶏舎もあります。



7 夕方になると翌日の飼料作り。米粉、米ぬかのほか、自家製の発酵飼料や魚粉、カキ殻、初殻燻炭、ごま油の搾りかすなどを配合。  
8 鶏舎に並ぶ産卵箱。鶏たちは安心できる場所に自らこもって産みます。これも本能。  
9 黄身はやさしいレモン色。この日のおかずは悦子さん直伝「たまごコロケ」で中身はじゃがいもとゆで卵を漬したものを。卵を香りと味わう卵農家ならではのおいしさです。  
10 両端が藤田孝広さん(69歳)・悦子さん(66歳)夫妻、中央が佐野洋介さん(39歳)・さと子さん(39歳)夫妻と次男の文太くん(1歳)。

※1 出典:「Consumption in selected IEC countries (eggs/person/year)」/ IEC (国際鶏卵委員会) (2021年)

※2 出典:「アニマルウェルフェアに関する新たな国の指針について〜採卵鶏〜」/ 農林水産省 (令和5年10月)



飼料中の穀物は国産100%。  
平飼いで育った鶏の卵です  
国産穀物育ち・さっぱり平飼卵  
1368 産 6コ 480円(税込518円)  
1369 産 9コ 711円(税込768円)  
※フジタファーム以外の卵が届く場合もあります。  
※注文数が多い場合は大地を守る会の平飼卵/産地限定・大地を守る会の平飼卵を代用でお届けします。  
※卵の総重量は10コ入りか550g以上、6コ入りか330g以上です。  
①卵  
②着日含め6日保証  
③大地を守る会の生産者(埼玉、長野、佐賀)  
※同時配布の『カタログ大地を守る』とお買い物サイト138号を合わせてご覧ください。

# ソーシャルレポート

2006年から行っている「DAFDAF基金」と、子どもたちへの食支援についてお知らせします。

編集後記 ↓ 今号の特集では八ヶ岳の麓のフジファームを訪ねました。雄鶏が鳴いて夜が明けたら水やり。鶏にははんをあげてから自分たちの食事。集団になじめない鶏がれば別にケアします。命を育む日々には休みはありませんが、「鶏たちが待っているから」と愛情を注ぐ姿が心に残りました。(編集部・青木)

## 海外の有機農家を支援しています DAFDAF基金

### 支援先のミャンマーの現状報告

2006年より始まった大地を守る会ならではの顔の見える海外支援「DAFDAF基金」。主に海外の有機農家の生活向上を支援するための基金です。その支援先の一つ、ミャンマー北部有機実践農場は、日本で有機農業を学んだドナルド

さんが、地域の住民や山岳民族の生活向上のために始めた農場です。これまで鶏舎と豚舎建設、野菜運搬車両、持続可能な農業を教えるためのワークショップハウスの建設などを支援してきました。

### さまざまな困難を乗り越えて

会員の皆さまからいただいたミャンマー支援への総額は2,660,500円(2006年と2014年募金分)。家畜の伝染病、新型コロナウイルス感染症、天候不順、さらには政変により困難に直面していますが、食べ物を作る人々は逞しく生活していま

す。2024年7月の報告によれば、野菜の品種を増やし、小規模の畜産ワークショップも開催できたとのこと。伝染病を乗り越えて養鶏も復活しました。これからもドナルドさんを通して地域の人々を支援していく予定です。

- 1 伝染病を乗り越えて、養鶏も復活しました。
- 2 農業に興味のある若者を集めて、循環型農業のワークショップを開催。
- 3 ミャンマーの地域住民や山岳民族の生活向上を目指して農場を運営するドナルドさん。



## 国内外の子どもたちへの食支援

### ひとり親世帯を応援 WeSupport Family

食品の企業にご協力いただけるサポート企業と困窮世帯を支援している団体をマッチングし、必要としている家庭に食支援を行っています。支援世帯に喜ばれる食材の一つにお米やパン、麺類などの主食があります。9月～10月にみなさまよりお寄せいただいた寄付金は、WeSupport Familyの支援世帯へのお米代として活用させていただきます。お米は当社の生産者から購入し、支援団体が開催するフードパントリーで配布します。

サポート企業：**66社**  
支援世帯数：**28,093世帯**  
(2024年8月2日時点)

ご協力よろしく  
お願いいたします

子どもたちの食事と栄養を支援  
WeSupport Family募金

4802  
1口 500円

※募金にポイントを  
ご利用いただくことはできません。  
※募金は送料算出時の  
「ご注文金額」には含まれません。



支援団体でのフードパントリー開催準備の様子。お米やレトルト食品などが喜ばれます。



Instagramを始めました  
フォロー歓迎です!  
#wesupportfamily

### 食の不均衡を解消 TABLE FOR TWO (TFT)



支援するお粥(ソソマポリッジ)の朝ごはん。給食があることで学校に通うことができるようになります。

開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病に同時に取り組む活動です。大地を守る会でも寄付金付き商品の販売を通して開発途上国の子どもたちに給食を届ける活動を支援しています。TFT対象商品1品につき、売り上げの3%がTFTに寄付され、20円の寄付で温かい給食1食分がケニア、タンザニア、ルワンダ、フィリピンの支援先に届きます。



支援対象商品はこちら  
有機栽培バナナ  
(TFT寄付金付き)  
1036 産  
500g 606円(税込)  
※1点につき17円がTFTに寄付されます



支援先のルワンダの様子を  
ご紹介する動画を公開しています

『NEWS大地を守る』は  
WEBでもご覧いただけます。  
イベントの詳細・お申込みもWEBからどうぞ。  
<https://www.daichi-m.co.jp/>

### お問合せ

大地を守る会サポートセンター TEL●0120-158-183  
受付時間●月～金・午前9:00～午後5:00/土・午前9:00～午後1:00  
お問い合わせフォーム●<https://takuhai.daichi-m.co.jp/support>  
E-mail●[support@takuhai.daichi-m.co.jp](mailto:support@takuhai.daichi-m.co.jp)



イベントは左記  
WEBサイト内の  
「イベント情報」へ。

●『NEWS大地を守る』に掲載している  
取り組みは、主に大地を守る会の  
宅配サービスの年会費・利用料で  
運営されています。

### 注意事項

当社は、大地を守る会のイベント及び大地を守る会が告知する他団体のイベントにお申込みいただく際、ご記入いただく個人情報を、お申込み内容に関する確認、参加者への連絡、抽選、抽選結果連絡、お問合せに対する回答、非常時に関する対応、イベントの質向上管理のために利用させていただきます。なお当社は、イベント等を旅行者に業務委託する場合があります。この場合、個

人情報を開示することがあります。業務委託にあたっては、個人情報の保護に関する契約を締結し、業務委託先が契約を遵守するよう必要かつ適切な管理及び監督を行います。上記に同意の上お申込みください。個人情報の取扱いに関するその他の条件については、当社ウェブサイトの個人情報保護方針をご確認ください。  
<https://takuhai.daichi-m.co.jp/Information/8>



発行 オイシックス・ラ・大地株式会社  
東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー5階  
TEL 050-5306-8513